

2023年度第2回学校評価委員会（将来構想委員会）報告書

日 時：2023年11月24日（金）18：30～19：40

場 所：会議室

出席者：医師会…会長・副会長・事務長

学校……副学校長・両科教務主任・事務次長（進行）

外部……筑後市立病院長・公立八女総合病院看護部長・姫野病院看護部長

福島高等学校長・八女学院中学・高等学校進路指導部長

1.開会（18：30）

2.委員長挨拶（医師会長）

3.委員紹介（自己紹介）

4.議題

1) 将来構想委員会の設置目的等について

- ・委員会設置趣旨・我が国の看護教育の動向について（副学校長）
- ・本校の学生動向について（両科教務主任）
- ・学生確保に向けた対策について（副学校長）

2) 意見交換 ※敬称略

（進行） 今回初めてご参加いただいております校長先生、今年度は多くの受験生を送って頂きありがとうございます。今後の学生の動向などについてお話をお聞かせいただけますか。

（委員） 送り出しているものの、卒業後の実情が把握できていない。2名の学生が退学した事を聞き、今後の対策を考えていきたい。

現在の学生状況については、中学でしておくべき学校行事が実施できていないことや先輩から後輩が引き継ぐなど、経験をしていない生徒が多いので、これまでと同じ指導ではいけないと思う。

コロナ禍で経験が少なく職員が手をかけているが、生徒たち自身が取り組んでいる姿勢を見せてくれることが大切なのではと考える。

進路については、以前に比べると大学を目指す学生も増えているが、専門学校を志望し技術を身に付けたいと思っている学生も多い。

（委員） 看護学校の状況を聞き、本校の課題と似ていると感じた。

入試のレベルを下げると入ってくる生徒は多いが、入学後に生徒が苦勞することになる。入学してからの指導が厳しい。

進学先はほぼ大学で、医療系では理学療法士、作業療法士を目指す学生が

多い。また、看護系では男子学生は100%が大学、女子は経済的な理由から専門学校を志望する生徒もいる。

(委員) 准看護科の学生数の減少に驚いている。多くの高校生が大学進学を希望する時代にあるが、この専門学校の准看護師から看護師の資格取得のツールは残してほしい。

現代の子ども達の状況は臨床現場も同じ。現状を理解し受け入れていくしかないと思っている。

(委員) 実習になると体調を崩す学生が多いと聞き、実習があまりストレスにならないように受け入れる側が環境を整えることも大事だと考える。実習指導者講習会などの伝達講習をしながら、楽しく安心して実習できる環境を作ることが大事だと思う。

(委員) この少子化が続くと看護師、介護師不足が大きな問題となる。大学では卒業前後のサポートを行っている。

今の学生に「趣味は」と聞くと、テレビゲームという。コミュニケーション力・対人力の低下に繋がっている。社会問題にもなっており問題が複雑で、色々な要因が考えられる。

モチベーション（やる気）を持たせることが大事で、個人差があるので指導は大変だが、コーチングなどを取り入れ対策を行っている。

カウンセリングを受ける前の段階でコーチングを行うなど、年間を通して対策を取っている。 ※コーチング講習会「職場におけるコーチング」
難しいと思うが、若い人の文化と状況を把握しないと対応・対策はとれないと思う。

(学校) すぐ辞めるという状況は、以前のように苦勞してでも資格を身につけるというよりも、自分の時間を楽しみたいという一般の人の価値観や生き方の変化も要因に絡んでいる。

(学校) 資格を取る為に入学してきている訳だから、いかに本人がモチベーションをあげるために何をしてあげたらよいか課題となっている。

本校はチューター制を取り入れ、学生に対し個別の指導を行っている。学生が少ないことで返ってしっかり関わる事が出来、強みにはなっている。

何事に関しても無関心で反応が無い学生に何をしてあげたらいいのか、とっかかりは何かあるか。

(委員) モチベーションそのものにスイッチが入っていない、タイミングがわからない。大人が言っても聞かない。先輩たちからのアドバイスがモチベーションに繋がる。

対策として、高校と大学の連携によりイベントの企画やツイッター・インスタなどでの発信を行っている。学生は情報を見て、興味があるものには参加しているようだ。

また、大学入試が終わった3月に、3年生から在校生へ学校生活や受験についての話(アドバイス)をしてもらっている。卒業生も自信をもって話す。身近な先輩の声が一番響くように感じる。

(学校) 入試の面接時に、高校で介護関係のボランティアに行っていると聞いていたが、ここ2~3年は聞かない。最近の現状はどうか。

(委員) 学生が積極的に行っていたが、コロナ禍で中止になっていた。

今年度は7月に災害ボランティアに参加している。

また高校の学生募集の対策として、中学生に向け、卒業生の話を聞いてもらう機会を設けている。

(学校) 理解ある卒業生に話をしてもらう。先輩から後輩へ語り継がれることが一番よい。本校もオープンキャンパスなどで卒業生からの話をしてもらっている。

希望を持ち入学してくるがすぐ諦めて退学する為、まずは休学というステップを踏むよう指導している。

退学した学生に「もう一回おいでよ」と声をかけることも大事だと思う。

(学校) 高校生が専門学校を選ぶ基準や学校が勧めるポイント(内容)を聞きたい。

(委員) 沢山の学校を見てくるよう伝えている。今は保護者同伴で大学等を見学に行く。そうなると保護者の思いが強くなり選択に影響されやすい。この点は要注意となる。

(学校) いかに楽しくいくかを一番に考えている学生が多い。

高校の先生方から、この看護学校に進学してすごく成長したと言われている。

(委員) いくつかの選択肢を提示する。自分の目で見えてくるよう伝える。
本校の生徒はあまり遠方へ行こうとしない。近郊で進学先を選ぶ傾向にある。経済的な面をしっかりと親子で話をしてほしいとお願いしている。

(学校) 学校も多くの対策を考えている。学校訪問や病院への依頼の際には、オープンキャンパスや募集要項などのポスター掲示や情報発信にご協力もお願いしたい。

・ 今後に向けて

(学校) 学校経営が難しくなる一方だが、学生のモチベーションを上げ、厳しい状況でも入学の間口を広げて、しっかりと教育し、時には時間をかけてでも質の高い看護師を輩出する必要がある。

(進行) 本日は貴重なご意見をありがとうございました。
本日のご意見を参考に今後の状況をみながら学生募集、運営、学生指導に繋げていきたいと思う。今後ともご指導ご協力をお願い致します。

5. 閉会の挨拶

(学校) コロナの影響は大きいものだと思う。
これからの状況を見ながら、本校の在り方を見直し、オープンキャンパス、学生募集に力を注いでいきたい。
教職員も頑張っている。先生方のお力添えを宜しくお願いしたい。

2024年度学校関係者評価委員会報告書

学校評価委員会（自己点検・自己評価）の第一回学校関係者評価を行いました。
その結果を下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

- ・評価委員……九州大谷短期大学 教授（学識経験者）
筑後市立病院 看護部長（企業等委員：専門分野関係者）
学生保護者（PTA：看護科学生保護者）
※欠席……久留米工業大学 教授（学識経験者）
姫野病院 看護師（卒業生：同窓会役員）
- ・学校……… 医師会長・学校長
医師会副会長・学校担当理事
副学校長
准看護科 教務主任
看護科 教務主任
事務長
事務次長（進行）

2. 日時：2024年7月26日（金）19：05～20：15

場所：会議室

3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について（副学校長）
これまでの取り組みの経緯について
・准看護科、看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表
- 2) 2023年度学生状況について（副学校長）
- 3) 2023年度准看護科評価結果について（准看護科 教務主任）
・ホームページにて公表
- 4) 2024年度准看護科重点課題について（准看護科 教務主任）
・ホームページにて公表
- 5) 2023年度看護科評価結果について（看護科 教務主任）
・ホームページにて公表
- 6) 2024年度看護科重点課題について（看護科 教務主任）
・ホームページにて公表

7) 意見・質疑応答

質問・意見（評価委員）	回答・意見（学校側）
<p>1) 短期大学も入学者が減っており、選抜が出来ない。モチベーションの低い学生に対して一生懸命関わられていることに頭が下がります。</p> <p>オープンキャンパスの参加者を集める方法をお聞きしたい。</p>	<p>高校に関しては6月末に筑後地区の高校を訪問し、入試やオープンキャンパスについてご案内をしている。また高校進路ガイダンスなどに参加させていただいている。准看護科学校は柳川・鳥栖・筑紫・熊本方面へ訪問をして案内している。</p>
<p>2) 専任教員は何人ですか。</p>	<p>指定規則上、准看護科5人以上（当分の間3人以上）、看護科7人以上となっており、本校は准看護科4人、看護科7人の専任教員がいる。</p>
<p>3) 病院は看護師が不足している。国家試験の合格率が65%の原因は。</p>	<p>開校以来の今回の最低な結果について分析したところ、113回は全国平均としても昨年より3%低下したので、全体的に難易度が上がったと言える。</p> <p>今年の卒業生の状況は、准看護科時代から看護科1年次迄の3年間、新型コロナの影響を受けたことが大きな要因と考える。ほぼ学内実習であったことで、看護科の2年次の実習で単位をとれない学生が多く出た。この為、旧カリキュラムの追・再実習の時期が1月であり、国家試験の最後の追い込みが出来なかった。しかし、これまで追・再実習を同時期に実施しても国家試験で不合格にはならなかった。</p> <p>また教員においてもカリキュラム改正により、細かい打ち合わせが必要となり会議に時間を要し多くの時間を必要とした。教育する側にも要因があったと思っている。</p> <p>本校のこれまでの国家試験合格率が高かったこともあり、学生・教職員共、危機意識が薄れていたと考える。</p>

<p>4) いつも先生方の取り組み姿勢は素晴らしいと感じている。来年は期待しています。</p>	<p>今の2年生は危機感を持ち頑張っている。教員も気を引き締めている。</p>
<p>5) 入学者も減少しており、退学者も増加しているとなると、退学者の増加を防ぐ対策として、メンタルケアなどに力を入れられると学生数が維持を出来るのではないか。 退学者を減らす努力が必要なのではないか。</p>	<p>同感である。しかし入学時のモチベーションも関係していると思うが、遅刻や欠席をすることで履修できず結果、休学や退学になっている。 学校に来ない、諦めが早いなど十分に関わること出来ない状況が多くなっている。</p>
<p>6) 3年の教育課程と比べて4年の准看護科・看護科の教育課程の内容の違いは。</p>	<p>准看護科 1,890 時間、看護科 68 単位以上で2課程の合計は約 4,000 時間、3年課程は 102 単位以上、約 3,000 時間以上となっている。時間数としてはより多く学んでいるが、准看護師を取得するための2年間であるので、それを土台にしっかり学べば2年課程の看護科で学びが十分深まる。</p>
<p>7) 社会の構造が変わってきており、家庭の中で職業の選択肢を話すときに、以前は先ずは准看護師、それから正看護師と言っていたが、今は学歴重視で経済的に余裕があれば大学に進学する。 社会人入学も、最近では企業側の雇用条件が良くなり雇用が増加していることで、PT・OTなど医療職の専門学校への入学者も減少している。 このようなことが日本全体の准看護課程への入学者の減に繋がっている。 看護科においては、准看護科の減が大きな影響となっている。</p>	
<p>8) 准看護師の資格を取って就職した人の追跡は出来ているのか</p>	<p>昨年はお母さん学生が多かったので、就いた学生が多かった。 数年後には看護科への進学を考えていると聞いている。</p>